

渋沢栄一 略年譜 ①

和暦	西暦	年齢	月	内容
天保11	1840	0歳	2	13日、武蔵国榛沢郡血洗島村（現・埼玉県深谷市血洗島）に生まれる。渋沢家は代々の農家で、畑作、養蚕、藍玉製造販売などを行っていた。
弘化4	1847	7歳		従兄の尾高惇忠から『論語』をはじめ四書五経などの漢籍を学ぶ。
嘉永4	1851	11歳	3	従兄の渋沢新三郎に入門し、神道無念流の剣術を学ぶ。
				家業の畑作、養蚕、藍葉の買入、藍玉製造販売に精励する。
安政5	1858	18歳	12	尾高惇忠の妹千代と結婚する。
文久元	1861	21歳		江戸に出て、海保漁村塾および千葉栄次郎道場で学ぶ。
文久3	1863	23歳	10	高崎城襲撃および横浜外国人居留地焼打ちの計画を中止。
			11	嫌疑を逃れるため、従兄の渋沢喜作とともに京都へ出奔。
元治元	1864	24歳	2	一橋慶喜に仕える。
慶応2	1866	26歳	12	14代将軍家茂の死去に伴い、一橋慶喜が将軍に就任。栄一は幕臣となる。
慶応3	1867	27歳	1	徳川昭武（慶喜の弟）に従い、パリ万博使節団の一員としてフランスへ渡る。
明治元	1868	28歳	11	昭武の水戸家相続に伴い、帰国する。
			12	静岡で徳川慶喜に拝謁。
明治2	1869	29歳	1	静岡藩に商法会所を設立。頭取となり、実質的に事業を取り仕切る。
			11	明治政府に出仕。
明治3	1870	30歳	10	官営富岡製糸場設置主任となる。
明治6	1873	33歳	5	大蔵省を退官。
			6	第一国立銀行（同29年に第一銀行。現・みずほ銀行）開業。栄一は総監役に就任。
明治8	1875	35歳	8	第一国立銀行頭取に就任。
明治9	1876	36歳	5	養育院事務長に就任（同12年、院長に改称し、終生務める）。
			8	26日、深川福住町（現・永代2-37）へ転居する。
明治11	1878	38歳	11	深川福住町に「表座敷」が落成。
明治15	1882	42歳	7	14日、妻の千代が死去。
				28日、深川に倉庫会社を設立（同19年、解散）。
明治16	1883	43歳	1	伊藤兼子と再婚。
明治17	1884	44歳	7	浅野総一郎との出資により、匿名組合浅野工場を発足（現・太平洋セメント株式会社）。

深川在住

旧渋沢家住宅 深川福住町時代